

主要Q&A

< 全社 >

Q: 2013年度第2四半期累計実績の概要は。

A: 2013年度第2四半期の全社累計実績は、海外たばこ事業の単価上昇効果に加え、円安影響により、すべての指標で対前年同期を上回り、通期見込に対し順調に進捗しています。全社利益指標である為替一定ベース調整後EBITDAは対前年+0.7%成長となりました。なお、営業利益および四半期利益の増益には、一部固定資産売却益が含まれています。

Q: 2013年度通期見込の変更内容は。

A: 為替一定ベース調整後EBITDAの通期見込は変更せず、対前年+6.1%成長を目指します。一方、報告ベース調整後EBITDAは、円ドル為替レートの前提条件を95円から97円に変更したことに伴い上方修正しました。営業利益は、円安為替影響に加え、当初計画を上回る固定資産売却益の計上を要因として上方修正しました。当期利益については、将来のJTIからの配当による資金還流の必要性に鑑み、配当実施時に課税されるであろう法人税費用を会計上見積もり今期から計上する予定であり、これを主要因として、通期見込を据え置いています。

< 海外たばこ事業 >

Q: 2013年度第2四半期の概要は。

A: 1-6月期調整後EBITDAの実績は、数量減少影響を上回る単価上昇効果により為替一定ベースで+7.0%成長となりました。ロシアにおいて規制導入前にマーケティング等販促投資を行ったことに加え、2012年度第2四半期においてNorth & Central Europeクラスターにおける物流事業の一部事業の売却益計上といった特殊要因があったことがコスト増に影響しました。

Q: 2013年1-9月期のJTIの速報実績は。

A: 1-9月期総販売数量は、スペイン、イタリア等の欧州市場やロシアにおける総需要減少、中東での不安定な事業環境、及び1-3月期における複数市場での在庫調整の影響を受け、-5.1%の減少となりました。一方、ロシア、UK、台湾、ウクライナ等での適切な価格戦略による単価上昇効果により、為替一定ベース自社たばこ製品売上収益は+4.6%、為替一定ベース調整後EBITDAは+11.1%の力強い成長を実現しました。

Q: 2013年7-9月期の販売動向は。

A: 7-9月期GFB販売数量は、中東における不安定な事業環境による影響やロシアでの中価格帯での競争が継続したことから、-1.8%となりました。クラスター別については、South & West Europeは、西欧市場における景気後退による総需要減少が継続しておりますが、JTI販売数量の減少率は改善し、対前年-2.1%となりました。North & Central Europeは、ドイツ、チェコ、ポーランド、ハンガリー等の複数市場において好調であり、対前年+10.5%の2桁成長となりました。CIS+は、ロシアにおける総需要減少、中価格帯での競争継続の影響を受け、対前年-2.6%となっております。Rest of the Worldでは、中東における不安定な事業環境の影響により、対前年-4.6%となりました。

7-9月期総販売数量は、Gryson社買収効果やSouth & West Europeの販売数量減が改善したことに加え、North & Central Europeの複数市場で好調が継続しましたが、CIS+におけるロシアでの総需要減少および中・低価格帯での競争継続、Rest of the Worldにおいて、中東地域での不安定な事業環境の影響があったことにより、対前年-5.1%となりました。

足元の事業環境は、欧州市場の経済環境は短期的な回復が期待できる状況にはないと認識しております。また、ロシア市場については、当初想定よりも総需要が弱含んで推移しており、2013年は対前年-7%程度で着地すると見込んでいます。

Q: 2013年度の業績見込の変更内容は。

A: 海外たばこ事業につきましては、ロシア、西欧市場での総需要減少、中東における不安定な事業環境に鑑み、総販売数量、GFB販売数量を下方修正しました。また、販売数量の下方修正に伴い、自社たばこ製品売上収益につきましても下方修正しました。事業環境は、引き続き、ロシア、西欧市場での総需要減少、中東での不安定な事業環境は継続すると想定しておりますが、為替一定ベース調整後EBITDAは、適切な価格戦略による単価上昇効果をドライバーに、対前年二桁成長の達成に確かな手応えを感じており、見込は変更しません。円ベース調整後EBITDAは、円安影響を大きく受け、+30.8%の成長を見込んでいます。

<国内たばこ事業>

Q: 2013年度第2四半期の概要は。

A: 総需要が減少している中においても、対前年同期で1.1パーセントポイントのシェア伸長を達成し、販売数量(対前年+0.1%)および自社たばこ製品売上収益(対前年+0.2%)は対前年ほぼフラットの実績となりました。調整後EBITDAは、コストにおける円安影響に加え、MEVIUS等の新製品投入やブランドエクイティ向上に向けた材料費の増加がありましたが、販売促進費の減少がほぼ相殺し、対前年フラット(対前年-0.6%)となりました。

Q: シェア動向は。

A: 7-9月期は、MEVIUSの力強いパフォーマンスが全体シェア伸長を牽引し、60.7%のシェアを達成しました。MEVIUSについては、5月に「メビウス・プレミアムメンソール オプション」を投入し、積極的な販売促進活動を実施いたしました。結果、成長セグメントであるメンソールセグメントにおけるシェア伸長がMEVIUSシェア拡大に貢献しました。

引き続き、MEVIUS、Seven Stars、Pianissimoの注カブランドを中心に、多様化するお客様のニーズにお応えする新製品の投入、販売促進活動の展開等の施策を着実に実施し、さらなる競争力強化に取り組み、シェア伸長を目指します。